

1 事業名 令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「雪遊び in テンパーク～雪合戦練習会～」

2 趣 旨

雪合戦の体験や雪遊びの交流活動をととして、コミュニケーション能力の向上と自然に親しむ心を育む機会とする。

3 期 日 令和2年2月15日（土）～2月16日（日）

4 参加者 岩手県内 児童・生徒76名、引率者13名 合計89名
※参加人数の内訳

| チーム名 | 児童・生徒 | 引率者 | 計 |
|--------------|-------|-----|-----|
| 巢子スポーツ少年団 | 14名 | 3名 | 17名 |
| 仙北ゼラススポーツ少年団 | 14名 | 3名 | 17名 |
| 竹の子スポーツ少年団 | 15名 | 3名 | 18名 |
| 遠野東中学校 | 13名 | 1名 | 14名 |
| 大船渡中学校 | 10名 | 2名 | 12名 |
| 赤崎中学校 | 10名 | 1名 | 11名 |
| 合計 | 76名 | 13名 | 89名 |

5 後 援 岩手県教育委員会

6 協 力 岩手県雪合戦連盟

7 内 容

(1) 日 程

【第1日目：2月15日（土）】

| 11:00 | 11:30 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 17:00 | 17:15 | 18:00 | 19:00 | 20:45 | 22:00 | 22:30 |
|-------|---|---|--------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|--------|--------|---|-------------|--------|------------------|
| 受付 | 開 会 式 & オリ ン ピ ア ン シ ョ ン | 開 会 式 & オリ ン ピ ア ン シ ョ ン | 昼 食 | 雪 合 戦 講 義 | 雪 合 戦 練 習 会 | 雪 合 戦 練 習 会 | 休 憩 | 夕 食 | チ ー ム ミ ー テ ィ ン グ | 交 流 会 | 入 浴 | 就 寝 準 備 |

【第2日目：2月16日（日）】

| 6:30 | 7:00 | 7:15 | 8:30 | 9:00 | 12:30 | 13:30 | 14:00 |
|----------------------------|------------------|--------|------------------|----------------------------|--------|---------------------------------|-----------------------|
| 清 洗 起 掃 面 床 | 朝 の 集 い | 朝 食 | 退 所 点 検 | 雪 合 戦 練 習 会 | 昼 食 | ア ン ケ ー ト 記 入 | 閉 会 式 解 散 |

雪合戦・雪遊びを
満喫しましょう！

(2) 指導者

- ・ 作山秀一 氏 (岩手県雪合戦連盟理事長)
- ・ 名久井幸一 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)
- ・ 小田代雅裕 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)
- ・ 松坂英樹 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)
- ・ 上野克浩 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)
- ・ 阿部 悟 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)
- ・ 田村正寛 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)
- ・ 高橋 稔 氏 (岩手県雪合戦連盟審判員)

(3) 企画のポイント

雪合戦の体験や交流を通し、コミュニケーション能力の向上と自然に親しむ心を育む機会を提供することをねらいとして実施した。雪合戦講習会や試合の審判は、昨年度も協力を仰いだ、岩手県雪合戦連盟に行っていた。

今年度も、東日本大震災の被災地の子ども達に体験を提供するため、送迎バスを用意した。被災地である大船渡市からは大船渡中学校と赤崎中学校の2校の参加があった。また、遠野市から遠野東中学校が参加した。岩手県沿岸南部と遠野は積雪もなく、雪上の活動は今年度、初めての体験であった。3校の2年生は、昨年の参加で雪合戦の醍醐味を知り、早くから今回の事業を楽しみにしていた。小学校の部では、2つのチームが新規参加であり、雪合戦の楽しさが体験から感じられるように丁寧にルールを伝えた。普段はなじみの少ない積雪の中で、正式ルールのもとに作戦を考え、協力して雪合戦を楽しむことは、非常にワクワクする体験であることから、チームワークの向上に繋がるように工夫した。

また、全てのチームが野球チームであることから、雪合戦での対戦を通して交流し、野球シーズンに入っても野球で対戦できるように引率者への働きかけも行った。夜には小中それぞれに分かれての交流会を企画し、コミュニケーションを図れるようにした。

(4) 広報のポイント

春に岩手山青少年交流の家の年間行事を掲載したイベントカレンダーを岩手県内の全小学生児童に配付した。このイベントカレンダーに雪合戦事業の情報も盛り込んだ。また、夏期に施設を利用している団体に雪合戦事業があることを広報した。

(5) 運営のポイント

今年度は講習会後すぐにリーグ戦の練習会(試合)を始めた。どのチームもたくさんの試合を経験し、雪合戦の魅力を堪能できるようにした。練習会に参加できる年齢には達しない低学年の参加者もあったことから、2回のエキシビジョンマッチを行い、雪合戦の楽しさを感じられるようにした。会場は、昨年度と同様に、テニスコート内に2面の試合会場を用意した。テニスコートはフェンスに囲まれており、硬い雪玉が応援者にぶつかって怪我をしないようにした。

夕食後はチーム毎のミーティング会場を用意し、2日目に向けての作戦会議の時間を設けた。その後、小中それぞれに分かれて、他チームとの交流会を行い、参加者同士が身体を使った交流を通してコミュニケーションが図られるようにした。夜には、ボランティアを含めたスタッフミーティングを設定し、共有すべき内容や懸念される事柄についての対策を話し合った。

事業全体を通しては、代表者打合せを行い、チーム内で徹底して欲しい事柄を確認事項として紙面を使い伝えた。

8 成果とその普及

岩手県内各地から集まったチームが、雪合戦と交流会を通してコミュニケーションを図り友情を育むことができた。各チームにおいては、作戦を考え皆で実行する活動を通して、結束力を強くすることにも繋がっていた。参加者からは、「仲間との作戦をもとに楽しんでできて良かった。」「初めて雪合戦をやりました。ちょっと怖さはあったけど、やっているときは全く感じませんでした。とても楽しかったです。」引率者からは「戦略を考え、チームで一丸となって勝利に向かうことができ、とても楽しくやりがいのある競技だった。」「生徒達が意欲を持って活動する姿を見ることができた。」などの感想が寄せられた。

9 今後の課題

どのチームも少子化による人数の激減と働き方改革による宿泊を伴った事業への参加が難しくなっている。また、地域の行事参加や期末テスト期間に重なるなどの問題もあり参加チームの確保が難しい。更に、暖冬の影響で、雨が降ったり気温が高かったりで、積雪不足が懸念され事業の内容を再考する必要がある。



雪合戦講義の様子



試合の様子



参加者全員の集合写真